

2017年日本惑星科学会秋季講演会報告

2017年日本惑星科学会秋季講演会実行委員長(大阪大学LOC) 佐々木 晶¹

2017年9月27日(水曜)から9月29日(金曜)にかけて、大阪大学豊中キャンパスにて2017年日本惑星科学会秋季講演会が行われました(図1)。大阪大学では1993年に創立間もない日本惑星科学会の第1回秋季講演会が開かれおり、今年、24年ぶりに第25回秋季講演会を開催させていただきました。

会場は、講演会場として今年完成したばかりの理学研究科教育研究交流棟・南部陽一郎ホールを使用しました(図2、図3)。また、ポスター会場には基礎工学国際棟の会議室を使用しました。南部陽一郎ホールは、通常は使用料が必要なのですが、今回は、学部生及び修士1年の非発表の学生を参加費無料とするということで、理学部学生に有益と判断され、無償で借りることができました。演台を取り囲むように円錐形に座席が配置されたコンパクトな会場は、よい雰囲気で講演・議論ができたこと、好評をいただきました。

参加者は、211名(うち事前参加申込者139名、当日参加者72名)と大変多くの方にご参加いただくことができました。また、学部生及び修士1年の非発表の学生を参加費無料としたところ、45名の参加者がありました。大阪大学だけでなく、神戸大学や京都大学等近隣の大学からの無料参加者も多く、都市部での開催では、無料制度は多くの学生に惑星科学に触れる機会を提供することができるよい方法だとあらためて感じました。無料参加学生も入れた全参加人数は、おかげさまでここ10年の秋季講演会で最高人数を記録しました。

発表数は、口頭発表110件、ポスター発表72件で、両者のうちそれぞれ9件は、口頭発表とポスター発表



図1：受付前看板。



図2：南部陽一郎ホール。



図3：秋季講演会受付。

1. 大阪大学大学院理学研究科
sasakisho@ess.sci.osaka-u.ac.jp



図4：懇親会惑星焼きブース前。

の両方が義務付けられている最優秀発表賞のエントリー講演でした(プログラムは前号に掲載済)。二日目の総会にて、発表賞受賞者の表彰式が行われ、京都大学の野津翔太会員が受賞されました。また、総会後に最優秀研究者賞特別講演が行われ、国立天文台の秋山永治会員が「観測が明かす原始惑星系円盤と惑星系の姿」というタイトルで講演をされました。

口頭発表の一人当たり持ち時間は10分(質疑応答2分を含む)で行いました。秋季講演会計画当初は発表時間を確保するために、口頭発表を2会場並行で行う案も検討されましたが、「すべての発表を聴講できる」というメリットを重視する意見が多く、また議論をする十分な時間もなかったため、従来通り1会場で行うこととしました。ただし、同じテーマを同じ発表者が口頭とポスターの両方で発表することはご遠慮いただきました(最優秀発表賞エントリー者は除く)。また、同一発表者による発表は、口頭1件+ポスター1件までとさせていただきます。座長はLOC以外の会員にお願いしましたが、座長の皆様の適切な進行により、大きな遅延も生じず、無事にプログラムを進行することができました。

懇親会は二日目の夜に豊中キャンパス内にあるカフェテリア「らふおれ」を貸し切って行いました。懇親会参加者数は136名(事前参加申込87名、当日参加49名)と盛況でした。カフェテリアに無理を言って持ち込み自由としていただき、各種お酒類を大量に持ち込むことができました。その分、食事を多めに注文できたため、ご来場の方々には「たっぷり飲食できた」と



図5：惑星焼きを焼くLOC委員長。

好評をいただきました。また、懇親会企画として、惑星焼き(惑星の内部構造やカラフルな外観を模した、たこ焼き)をLOC有志がその場で焼いて提供しました(図4、図5)。惑星焼きを片手に惑星形成論を語り合う様子があちこちで見られ、惑星科学会ならではの楽しい企画となりました。

3日間の講演会日程を無事終えて、翌日の9月30日(土曜)には一般講演会が、京阪電車なわ橋駅コンコースのアートエリアB1で行われました。アートエリアB1は大阪大学とNPO法人ダンスボックスと京阪ホールディングス(株)が共同で運営しているアートコミュニケーション広場です。一般講演会は、主催：日本惑星科学会、大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻、アートエリアB1、共催：大阪大学21世紀懐徳堂という形で開催されました。一般の方々への広報や、参加申し込みから会場の準備まで、大阪大学21世紀懐徳堂という、市民と大阪大学をつなぐ社会学連携や社会貢献活動の窓口となる組織に全面的に協力していただきました。「月の科学の最前線」というテーマで、寺田健太郎会員(大阪大学)が分析・観測研究の側面から、玄田英典会員(東京工業大学)がモデル計算の側面から、佐伯和人会員(大阪大学)が探査の側面からそれぞれ月科学の最前線を語り、その後3者で対談しつつ来場者の質問に答えるというコーナーを設けました(図6)。事前申し込み定員70名の枠は申し込み開始後すぐに埋まり、当日立ち見覚悟でいらっしゃった方々も含めて100名近くの来場がありました。



図6：一般講演会のオープニング。

今回の秋季講演会を開催するにあたって、多くの皆様のご協力をいただきました。LOCの構成は、佐々木晶(委員長)、佐伯和人(総務)、木村淳(会計)、寺田健太郎(一般講演会)、近藤忠(懇親会)、西谷隆介(WEB)、山中千博(プログラム、案内)、植田千秋(ポスター主)、河井洋輔(アルバイト管理)、佐野孝好(ポスター副)の各氏で、体制をしっかりと組めたことが成功につながったと思います。大会運営について様々

な情報を提供していただき相談にのっていただいた、前大会岡山LOCのみなさま、惑星科学会各委員会のみなさま、秋季講演会運営に協力していただいたセッション座長のみなさま、アルバイト学生のみなさま、大阪大学21世紀懐徳堂のみなさま、そして、大阪に集まって熱い発表と議論を交わしていただいた参加者のみなさまに、LOCを代表して厚く御礼申し上げます。